

科目名	学科	学年	単位	教科書（発行者）	副教材等
社会と情報	国際交流科	1	2	新・社会と情報（日本文教出版）	情報のノート ケーススタディ 情報モラル

科目の到達目標	メディアについての理解とそれを適切に判断する力を育成するとともに、コミュニケーション能力を育成する。また、情報社会に参加する上での望ましい態度を育てる。
---------	--

学期	月	単元・題材	学習項目	学習のねらい（到達目標）
一	4	オリエンテーション 第1章 情報社会に生きるわたしたち	・ 情報社会とコミュニケーション ・ インターネットの広がり	・ 「社会と情報」での学習に見通しをもつ。 ・ コミュニケーション手段の発達について理解する。 ・ インターネット上のコミュニケーションサービスについて理解する。
	5		・ 情報の収集と信憑性の判断 ・ サイバー犯罪とその対策 ・ 知的財産とその保護 ・ 個人情報とプライバシー	・ 情報の信憑性を判断する重要性を理解する。 ・ サイバー犯罪を防ぐ方策を考える。 ・ 知的財産の意味とその種類について理解する。 ・ 個人情報の保護や活用方法について理解する。
	6	第2章 情報社会とデジタル技術	・ コンピュータとデジタルデータ ・ 情報量の単位 ・ デジタルの特徴	・ 情報を数値であらわすメリットについて考える。 ・ 情報量の単位について理解する。 ・ アナログとデジタルの違いを理解する。
	7		・ 文字・音・画像データの取り扱い ・ インターネットのしくみ ・ WWWと電子メール	・ 文字・音・画像のデジタル化の仕組みを理解する。 ・ インターネット通信の基本的な仕組みを理解する。 ・ WWWと電子メールの仕組みを理解する。
二	9	実習・演習	・ 文書の作成、レポートの作成 ・ プレゼンテーション	・ テーマに沿った内容を文章で表現する。 ・ 文書処理ソフトウェアを用いて、効果的に表現する。 ・ プレゼンテーションソフトウェアでスライドを作成する。 ・ プレゼンテーションの意味や効果的な発表の仕方を習得する。
	10	第3章 情報社会と情報システム	・ 社会を支える情報システム ・ さまざまな情報システム ・ 情報システムと商取引 ・ 情報セキュリティ ・ コンテンツ産業 ・ 情報通信産業を支える人々	・ 情報システムと社会のつながりを理解する。 ・ 身の回りの情報システムの具体例について考える。 ・ 企業による個人情報の活用例を理解する。 ・ 情報セキュリティや安全設計の考え方について理解する。 ・ コンテンツ産業の多様性について理解する。
	11		・ 情報通信産業を支える人々	・ 情報社会を支える職業や、ものづくりと情報技術との関連を理解する。
	12	実習・演習	・ 数値データの活用	・ 表計算ソフトウェアを用いて、数値データの活用方法について、一連の流れを習得する。 ・ 関数やグラフ等、表計算ソフトウェアの効果的な活用方法を身につける。
三	1	終章 情報社会と問題解決	・ 情報格差 ・ テクノストレス	・ 情報格差についての問題意識をもつ。 ・ テクノストレスやインターネット依存に対する問題意識をもつ。
	2		・ 問題解決とは	・ 問題とは何かを知り、基本的な問題解決の流れについて理解する。
	3		・ 問題の明確化 ・ 解決策の検討 ・ 解決策の実施と評価	・ 問題の明確化の流れを理解する。 ・ 解決策の検討の流れを理解する。 ・ アンケート調査の方法を、実施時に考慮すべきことを含めて考える。

評価の観点・評価の方法	◎評価の観点			
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性に関心をもち、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを進んで活用しようとするとともに、情報社会に主体的に対応しようとする。	表現やコミュニケーションの目的に応じて方法を工夫したり、結果を踏まえて改善するとともに、情報の収集・発信に伴う問題などを踏まえた適切な判断をする。	情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を生かして、コミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する。	表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用するための基礎的な知識を身につけるとともに、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解している。
◎評価の方法 定期考査の得点、課題の提出（提出状況、内容）、授業態度を総合して評価する。				